




病害虫発生予察情報予報第 11 号 (2 月の予報)

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}		2 月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
			平年比	前年比		
タマネギ	べと病	早生	やや多	やや多	260~263	 タマネギ べと病 一次感染株
		中晩生	多	やや多		
	ポトリチス葉枯症		やや多	やや多	264	
	白色疫病		並	並	265~266	
	ネギアザミウマ		多	多	271~272	
<p>1. べと病 早生・中晩生ともに、一次感染株（越年罹病株）の初発時期が近年の中でもやや早い。今後、発生盛期を迎え、前年の発生圃場などでは罹病株が増加するため、圃場の見回りと、罹病株の抜取りを徹底する。また、2月下旬からの定期的な薬剤防除を確実に実施する。（令和2年1月15日付け病害虫対策資料第13号参照）</p> <p>2. ネギアザミウマ 発生を認めた圃場では、低密度時から薬剤防除を行う。本虫は薬液のかかりにくい葉の隙間に寄生しているので、薬剤はそれらの部位にもかかるよう、生育に応じた十分量を丁寧に散布する。</p>						
施設果菜類	<p>向こう1か月は気温が高く、降水量も多いと予想されており、施設果菜類では、特に病害が発生しやすい条件となるため、以下の対策等に留意し、防除の徹底を図る。</p> <p>1. 病害全般（灰色かび病、菌核病、すすかび病、葉かび病、べと病、うどんこ病、疫病、褐斑病） こまめな換気とともに、循環扇や加温機を活用し、施設内の結露を防ぐ。特に、夜間の気温が高いと予想される際には、加温機の送風機能や循環扇を利用し夜間送風を行う。また、発病部位の早期除去、予防的な薬剤防除を組み合わせる。</p>					
イチゴ（本圃）	ハダニ類	多	多	209~210	 ハダニ類	
	うどんこ病	並	並	199~201		
	灰色かび病	多	並	202~203		
	アブラムシ類	多	並	214~215		
<p>1. ハダニ類 多発生圃場が散見される。発生初期からの防除を徹底する。薬剤防除の際は、5~7日間隔で系統が異なる薬剤を組み合わせる。また、天敵を放飼した圃場であっても、ハダニ類の増加を認めた場合は殺ダニ剤による防除を行う。（令和2年1月29日付け病害虫発生予察注意報第4号参照）。</p> <p>2. アザミウマ類 多くの圃場で発生が認められる。被害を抑えるため、開花盛期を避け低密度時に防除を徹底する。</p>						

作物名	病害虫名 ^{注1)}	2月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
キュウリ	べと病	やや多	やや多	179~180	 キュウリ 黄化えそ病
	うどんこ病	やや多	並	177~179	
	褐斑病	やや多	やや多	182~183	
	アザミウマ類	並	やや多	191~192	
	コナジラミ類	多	多	190~191	
	1. ミナミキイロアザミウマ：黄化えそ病、タバココナジラミ：退緑黄化病 媒介虫の薬剤防除を徹底するとともに、ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去し処分する。				
トマト	葉かび病	並	やや少	226~227	 トマト 灰色かび病
	灰色かび病	やや多	多	221~222	
	コナジラミ類	やや多	並	152~154 229~231	
	1. タバココナジラミ：黄化葉巻病 ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去処分するとともに、タバココナジラミの防除を徹底する。				
ナス	すすかび病	並	並	235~236	 灰色かび病
	灰色かび病	やや多	やや多	234~235	
	菌核病	やや多	並	238	
	アザミウマ類	やや少	並	155~160 242~243	
	コナジラミ類	やや多	やや多	152~154 243~244	
	1. 茎腐細菌病・褐斑細菌病 こまめに換気を行うとともに、早朝加温や循環扇の稼働により、湿度低下に努める。なお、発病株を認めた場合は発病部位を早急に取り除く。				
キク	白さび病	やや多	多	383~384	 白さび病
	アザミウマ類	並	少	388~389	
	アブラムシ類	並	並	390~391	
	ハダニ類	やや多	やや多	389~390	
	ハモグリバエ類	並	並	392~393	
	1. キク病害（白さび病、べと病等） 向こう1か月は気温が高く、降水量も多いと予想されており、キクでは特に白さび病やべと病などの病害が発生しやすい条件となる。多発生を防ぐため、換気を行うなど施設内の湿度低下を図るとともに、発病前からの定期的な薬剤散布を実施する。 2. ハダニ類 一部圃場で発生を確認している。本虫は薬液が到達しにくい葉裏や下位葉に寄生しているため、防除の際はこれらの部位にも薬液がかかるよう、十分量を丁寧に散布する。				

注1) 病害虫名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病害虫について「平年および前年より多い」と予想した

場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。
 注3) 防除対策については「[佐賀県病害虫防除のてびき](#)」も参照してください。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去10年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
 なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
- 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

- 1～2ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
 4ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

2月の気象条件

- 病害虫の発生に關与する2月の気象条件については、福岡管区気象台発表の1ヶ月予報（令和2年1月23日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年より多い」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に關与する気象条件

要素	1ヶ月予報における1月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に關与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	10	20 (6.7℃)	70	高
降水量	20	30 (77.5 mm)	50	多

Ⅲ. 2月の予報

タマネギ

定期調査 20 圃場
調査日：1月21日



定期調査圃場の様子

1. べと病（早生マルチ）

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年0.003%、前年0%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

今回の調査では発生を確認できなかったが、1月9日の調査では発生を確認している（株率 0.007%）。

定期調査での初発確認時期としては、近年の中でも2016年（1月5日）に次いで早い。

(2) 圃場の菌密度

近年の発生は多いため、圃場の菌密度は高いと推察される。（±～+）

(3) 令和元年12月に佐賀市で観測された降雨日数は18日であり、本病の一次伝染が助長されたと考えられる。（±～+）

(4) 2月の気象予報

降水量は多く、気温は高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

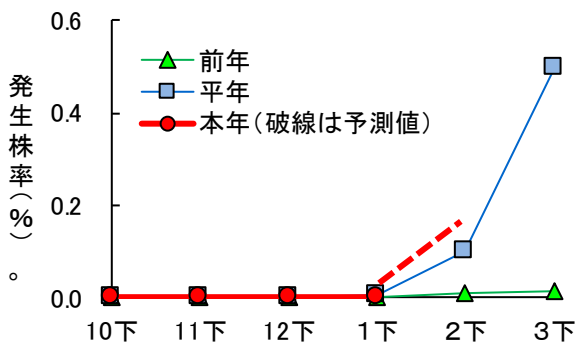


図1 早生タマネギでのべと病の発生推移

2. べと病（中晩生無マルチ）

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0.015%（平年0.001%、前年0%）

平年比：多（+） 前年比：多（+）

(2) 圃場の菌密度

近年の発生は多いため、圃場の菌密度は高いと推察される。（±～+）

(3) 令和元年12月に佐賀市で観測された降雨日数は18日であり、本病の一次伝染が助長されたと考えられる。（±～+）

(4) 2月の気象予報

降水量は多く、気温は高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。



定期調査圃場の様子

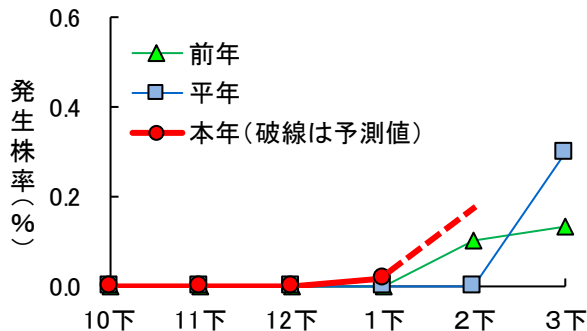


図2 中晩生タマネギでのべと病の発生推移

3. ボトリチス葉枯症

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年2.1%、前年0%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 2月の気象予報

降水量は多く、気温は高く、多発生の条件（+）

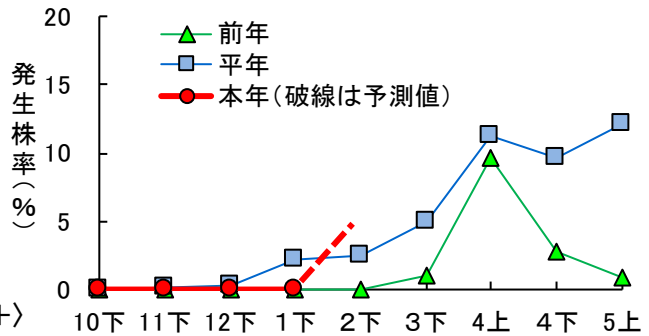


図1 タマネギボトリチス葉枯症の発生推移

4. ネギアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：8.6%（平年0.3%、前年0%）

平年比：多（+） 前年比：多（+）

(2) 2月の気象予報

気温は高く、多発生の条件（+）

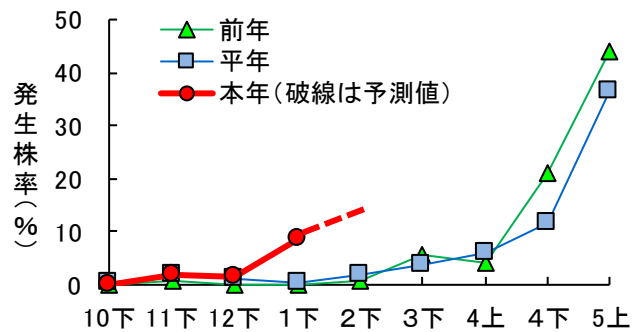


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。



定期調査圃場の様子

イチゴ（本圃）

定期調査 10 圃場、防除員 4 圃場
調査日：1月21～23日

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：28.0%（平年 10.8%、前年 10.6%）

平年比：多（+） 前年比：多（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。

(2) その他については、特記事項を参照する。

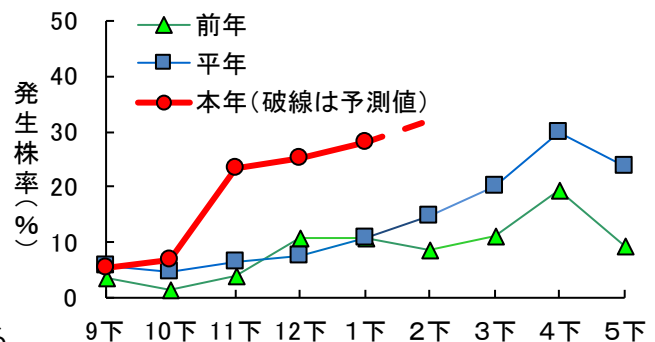


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：0.5%（平年6.3%、前年0.7%）

平年比：やや少（〜±） 前年比：並（±）

(2) 2月の気象予報

気温が高く、降水量も多く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 春先の発生を防ぐため、約10～14日間隔の薬剤防除を徹底する。「さがほのか」では、薬剤防除と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせる防除を行う。

(2) その他については、特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

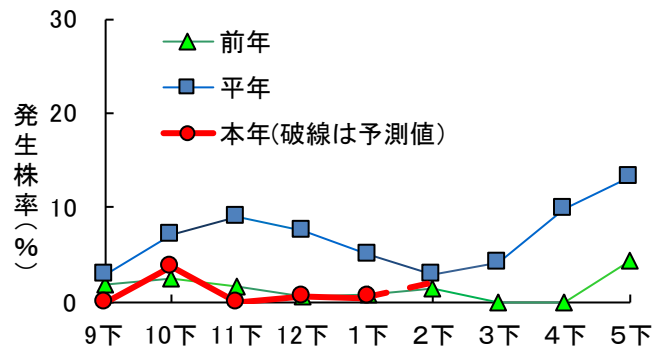


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：0.7%（平年0.0%、前年0.1%）

平年比：多（+） 前年比：多（+）

(2) 2月の気象予報

気温が高く、降水量も多く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 「いちごさん」では受粉後の花卉が外れにくいいため、果実での被害が発生しやすい。ブローア一等を用い定期的に花卉を除去する。

(2) その他については、特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

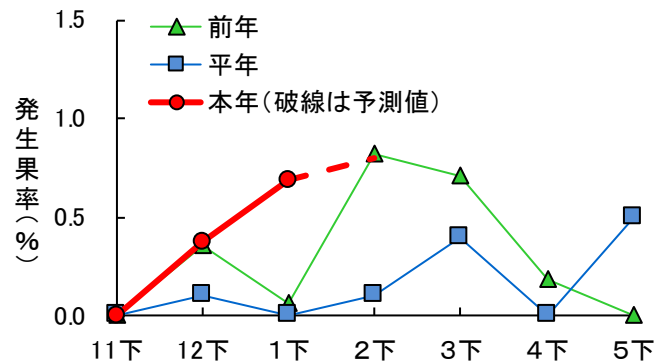


図1 イチゴ灰色かび病の発生推移

4. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：1.8%（平年0.2%、前年0.7%）

平年比：多（+） 前年比：多（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤防除の際は、ミツバチへ影響の小さい薬剤を選定する（県病害虫防除のてびき P531～535）。

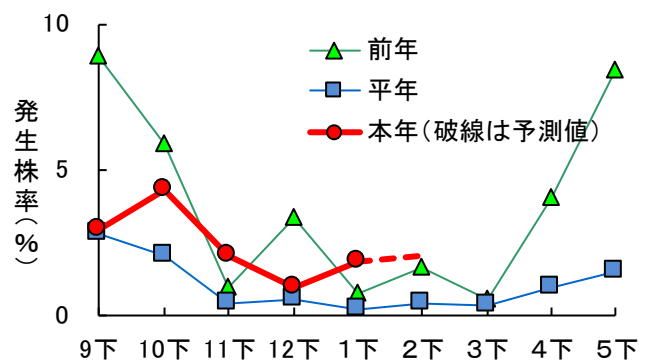


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

キュウリ（抑制）

定期調査5圃場、防除員2圃場
調査日：1月21～23日



定期調査圃場の様子

1. ベと病

1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：2.9%（平年2.7%、前年11.4%）
平年比：並（±） 前年比：少（-）

(2) 2月の気象予報

気温が高く、降水量も多く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

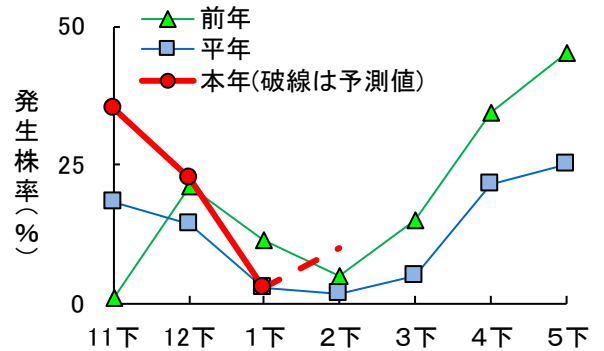


図1 キュウリベと病の発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：2.9%（平年6.4%、前年27.1%）
平年比：並（±） 前年比：少（-）

(2) 2月の気象予報

気温が高く、降水量も多く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 硫黄粒剤や硫黄水和剤等の耐性菌が出にくい剤を組み入れて薬剤防除を行う。
(2) その他については、特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

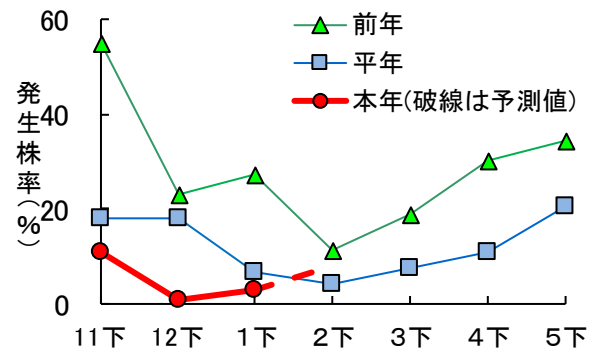


図1 キュウリうどんこ病の発生推移

3. 褐斑病

1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年1.1%、前年4.3%）
平年比：並（±） 前年比：少（-）

(2) 2月の気象予報

気温が高く、降水量も多く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

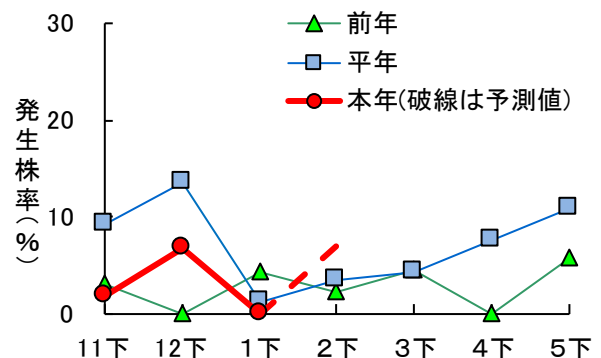


図1 キュウリ褐斑病の発生推移

4. アザミウマ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：1.4%（平年1.6%、前年3.6%）
平年比：並（±） 前年比：やや少（-〜±）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。

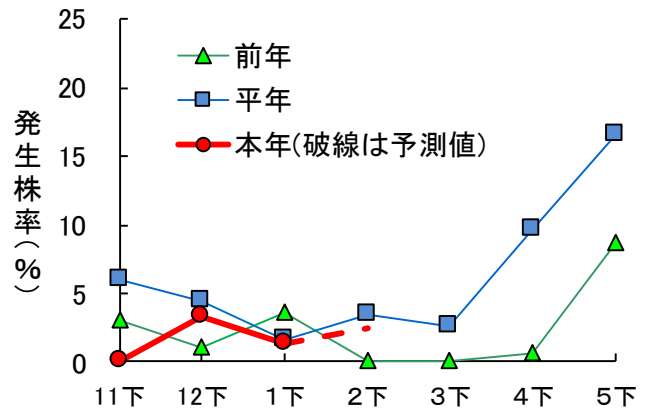


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

5. コナジラミ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：5.7%（平年1.0%、前年7.9%）
平年比：多（+） 前年比：やや少（-〜±）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。

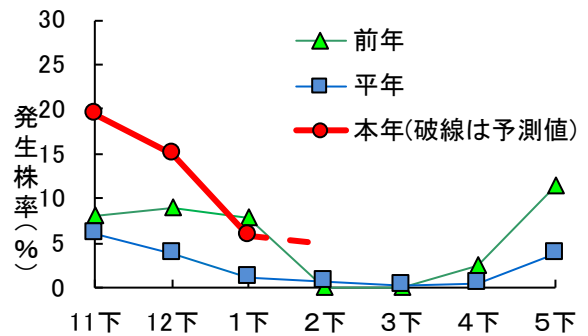
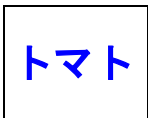


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移



定期調査：6圃場、防除員4圃場
調査日：1月17～23日

1. 葉かび病

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年よりやや少ない）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：1.5%（平年4.2%、前年8.6%）
平年比：やや少（-〜±） 前年比：少（-）
 - ② 2月の気象予報
気温が高く、降水量が多く、多発生の条件（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項（施設果菜類の項）参照



定期調査圃場の様子

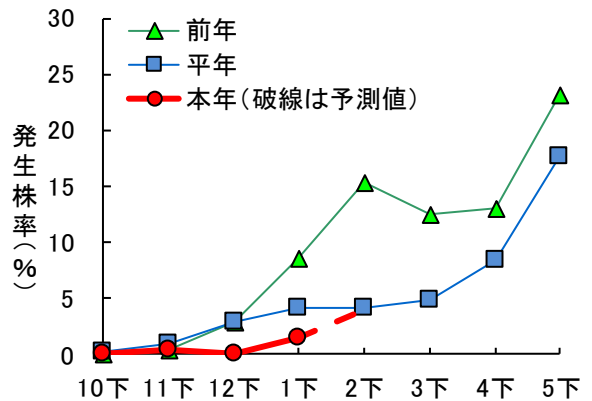


図1 トマト葉かび病の発生推移

2. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：3.0%（平年2.6%、前年1.1%）

平年比：並（±） 前年比：やや多（±～+）

(2) 2月の気象予報

気温が高く、降水量が多く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項（施設果菜類の項）参照

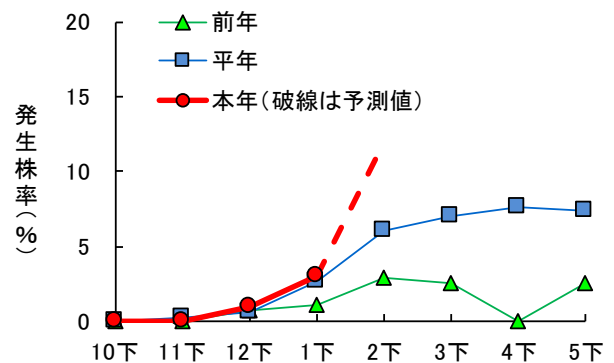


図1 トマト灰色かび病の発生推移

3. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：2.0%（平年1.3%、前年2.5%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

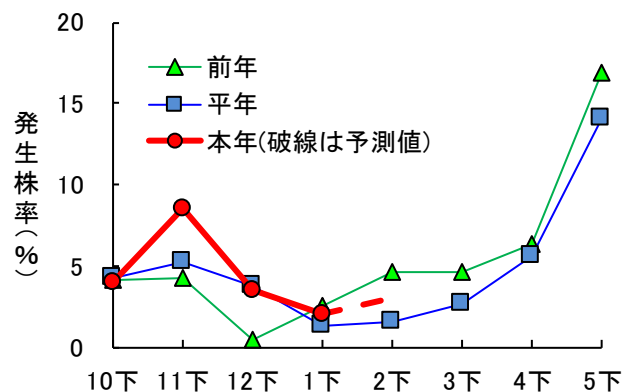


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移



定期調査圃場の様子

ナス（促成）

定期調査7圃場、防除員2圃場
調査日：1月21～22日

1. すずかび病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：1.1%（平年9.1%、前年1.9%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

(2) 2月の気象予報

気温が高く、降水量も多く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 初発生を確認後、本病の発生を低く抑えるために、直ちにダコニール1000（TPN水和剤）を散布し、約1週間後にベルコートフロアブル（イミノクタジナルベシル酸塩水和剤）を散布する。これを約1ヶ月間隔で実施する。

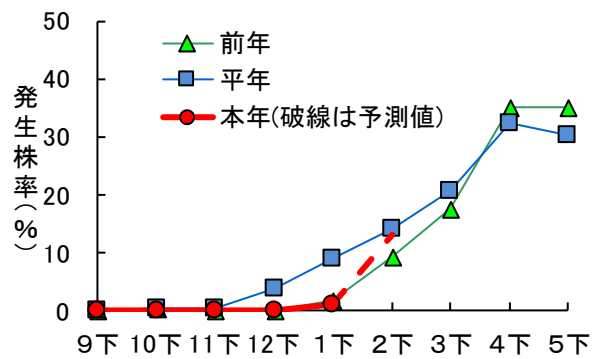


図1 ナスすずかび病の発生推移

2. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：0.3%（平年0.2%、前年0.2%）

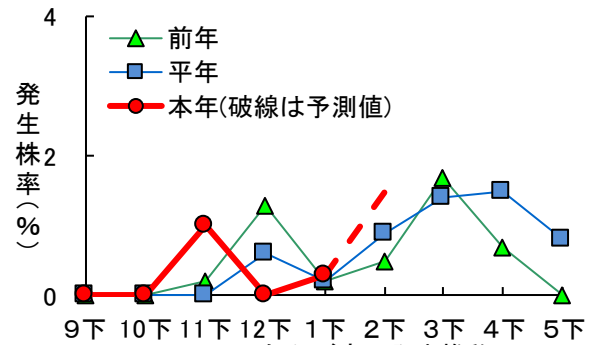
平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 2月の気象予報

気温が高く、降水量も多く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果実に残った花弁はできるだけ取り除き、過湿にならないようこまめに換気を行う。
- (2) その他については、特記事項（施設果菜類の項）を参照する。



3. 菌核病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：0.2%（平年0.1%、前年0.2%）

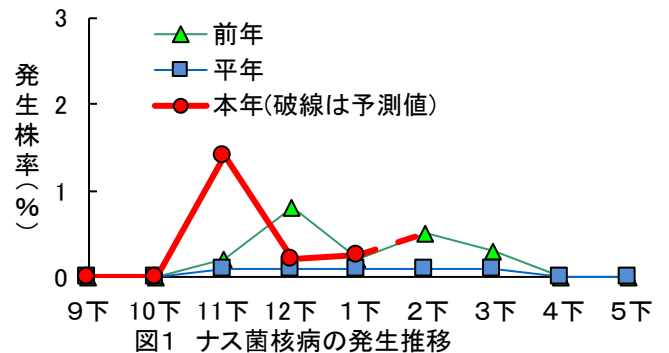
平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 2月の気象予報

気温が高く、降水量も多く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項（施設果菜類の項）を参照する。



4. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

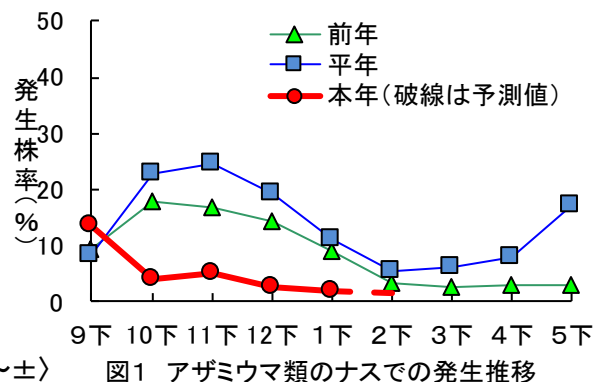
① 定期調査（図1参照）

発生株率：1.1%（平年11.2%、前年8.8%）

平年比：やや少（-〜±） 前年比：やや少（-〜±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。



5. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率：19.4% (平年11.0%、前年4.6%)

平年比：やや多(±~+) 前年比：多(+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) アザミウマ類の項と同じ。

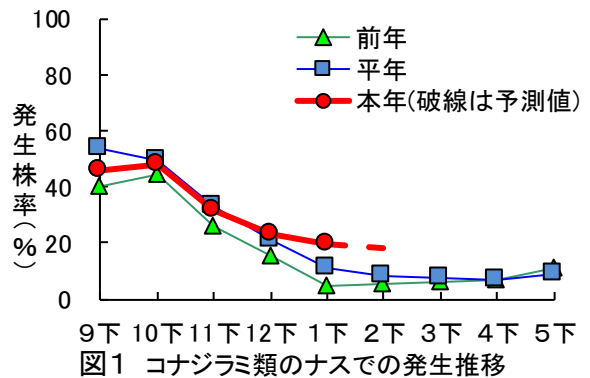


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移

キク

定期調査 (7 圃場)

調査日：1月20~21日



定期調査圃場の様子

1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率0% (平年0.6%、前年0%)

平年比：並(±) 前年比：並(±)

(2) 2月の気象予報

気温が高く、降水量が多く、多発生の条件(+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発病を認めたら、罹病葉は除去し、圃場外へ持ち出し適切に処分する。

(2) その他は特記事項を参照。

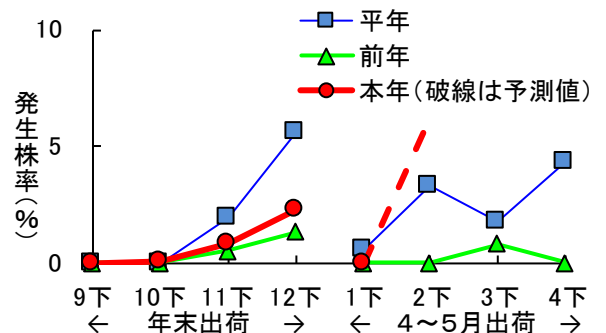


図1 キク白さび病の発生推移

2. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査

発生株率1.4% (平年0.5%、前年1.8%)

平年比：やや多(±~+) 前年比：並(±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

(2) その他は特記事項を参照。

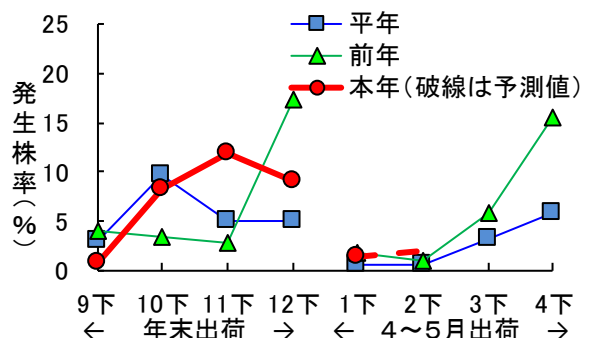


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部
 〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
 TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085
 Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp